

第 1 回「地域のニーズに応じたバス・タクシーに係るバリアフリー車両の開発」 検討会議事概要

1. 日時

平成 20 年 6 月 6 日（金） 10:00～12:00

2. 場所

国土交通省 11 階特別会議室

3. 出席者

<委員>

鎌田実、藤井直人、米田郁夫、川内美彦、大野寛之、佐藤加奈（代理）、岡本八重子（代理）、川村泰利、水田誠、富田征弘、斎藤進、時枝悦郎、飯田光也、松本博之、岡野俊豪、本多通弘、泰松潤、月見里三津夫、仲條直樹、中原康夫、武川恵子、蔵持京治（代理）、田路龍吾（代理）、後藤浩平

4. 議事概要

- 鎌田東京大学大学院教授が委員長に選任された。
- 事務局からこれまでの取組み及び 20 年度の検討の進め方を説明した。

○検討会では委員から主に以下の発言があった。

【総論関係】

- ・車両の開発は時間がかかるため、排ガス規制や安全基準等の法規制への対応時期も考慮する必要があり、開発のタイミングに留意する必要がある。
- ・日本だけでは市場規模が小さいため、海外展開も視野に入れ、海外の標準仕様を調査対象に入れてはどうか。
- ・アンケート調査については、専門知識がなくても回答できるように、質問をわかりやすくするなど工夫をすべき。
- ・一般の方々へのアンケート調査については、自由意見を書く欄を設けるとよいのではないか。
- ・高齢者・障害者の方々へのアンケート調査については、例えば中山間部と都市部で利用者のニーズが異なるなど、地域によって条件が違って来るので、地域の選択はよく考えるべき。
- ・障害者の方々の声としては、海外の方がバリアフリーが進んでいるという意見が一般的なので、日本でも是非積極的に取り組んでいただきたい。取り組みにあたっては利用者の意見を多く聞くべき。

【バス関係】

- ・歩行器は、高齢者の転倒を予防したり高齢者の外出を促進するのに有効であり、昨今、歩行器を利用する方が増えているので、歩行器を使用してバスを利用する高齢者のニーズについても考えていくべき。
- ・標準仕様の効果の評価にあたっては、標準化により統一的な仕様になったことにより、視覚障害者等の利用者側にどのようなメリットが出てくるのかという観点も取り入れるべき。
- ・車椅子利用者のニーズが強い高速路線バスについても検討対象にしてはどうか。

【タクシー関係】

- ・一般タクシーのUD化を検討するのであれば、海外の事例から見て、ミニバン程度の輸送人員が見込めるため、ハイエース、キャラバン等と車両の大きさが同程度になる可能性がある。一方で、ハイエース・キャラバン・コミュータークラスについては、自動車メーカーからの声として、市場規模が小さく新たな開発が困難だという否定的な意見が多く出されており、UDタクシーに力を集中するほうがよいのではないか。
- ・ハイエース・キャラバン・コミュータークラスについても、地方部のみならず都市部でも地域の交通の担い手として、ニーズが増えてきているので、バリアフリー化もしっかり検討すべき。
- ・UD化にあたっての検討項目として、チャイルドシートも視野に入れてはどうか。
- ・一般タクシーの利用者のほとんどは健常者なので、UD化にあたっては健常者の意見も取り入れるべき。
- ・一般タクシーのUD化にあたっては、現在のタクシー専用の車両のコンフォートに代わる次世代のタクシーを作るという方向からアプローチしていくべき。
- ・タクシーについては、必ず停留所で乗降するバスとは異なり、乗場での乗降が流しかによって望ましい乗降口の形等が変わってくる。流しの場合でも乗場での乗降の場合でも、どこでもUD条件が可能になる車両であることが一番望ましい。